

# 病害虫発生予察特殊報(第5号)

令和3年3月30日  
神奈川県農業技術センター

病害虫名：*Frankliniella williamsi* Hood

作物名：未成熟トウモロコシ

## 1 発生経過

令和2年9月、県内の生産者から未成熟トウモロコシ雌穂にアザミウマ類が寄生しているとの問い合わせがあった。現地を調査したところ、種不明のアザミウマが穎果及び苞葉と苞葉の間に寄生していることを確認した(図1,2)。寄生しているアザミウマ類を採取し、横浜植物防疫所に同定依頼した結果、日本未発生の *Frankliniella williamsi* Hood と同定された。

寄生を確認したほ場では、分散防止のために残渣を約1mの深さに埋没した。

## 2 形態

成虫は雌雄ともに長翅型。雌の体長は1.1mm~1.2mm、雄は雌より小さい。体と脚は黄色、前翅は淡色(図3,4)。触角は8節からなり、単眼前方刺毛は2対、前胸背板には5対の長刺毛を持つ。ミカンキイロアザミウマ (*Frankliniella occidentalis*(Pergande))によく似るが、体色が一様に黄色であること、腹部第2腹板に通常、副刺毛を持つこと、腹部第8背板後縁の櫛歯状突起がより発達すること、後脚基節背面に微刺を持つことで識別できる。

## 3 寄主植物および被害と分布

### (1) 寄生植物と被害

主にトウモロコシ、ソルガム等のイネ科植物に寄生するが、サツマイモ、トウワタ、トウガラシ、ダイズ、ラッカセイ等にも寄生するとの報告がある。トウモロコシを特に好み、葉や葉腋で繁殖する。また、穎果で繁殖することがある。吸汁により、葉の奇形やカスリ症状、退色、壊死が見られる(図7)。トウモロコシの穎果を吸汁した場合、吸汁痕から腐敗し、品質を著しく損ねることがある(図8)。日本では未発生だが、Maize chlorotic mottle virus (MCMV) を媒介する。

### (2) 分布と寄主植物

本種は日本未発生であり、アジア(ジョージア、タイ、台湾)、北アメリカ(メキシコ、アメリカ)、南アメリカ(アルゼンチン、ブラジル)、オーストラリア等に分布している。

## 4 防除対策

(1) 令和3年3月1日現在、未成熟トウモロコシにおいてアザミウマ類に対する登録農薬はない。

(2) 寄生が確認された株や残渣を廃棄する際は、ほ場外に持ち出して埋没する等、適切に処分する。

(写真)



図 1 苞葉への寄生



図 2 穎果への寄生



図 3 *Frankliniella williamsi* Hood 雌成虫



図 4 *Frankliniella williamsi* Hood 雌成虫



図 5 *Frankliniella williamsi* Hood 幼虫



図 6 *Frankliniella williamsi* Hood 蛹



図 7 苞葉の壊死



図 8 穎果の腐敗

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部  
〒259-1204 平塚市上吉沢1617  
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411  
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7cnt/f450002/>